

令和5年度 観光・国際交流部組織目標

組織名	観光・国際交流部	部長	観光・国際交流部長 関川 丈彦
組織の目的・方向性	新潟の魅力と拠点性を生かした誘客活動を積極的に展開するとともに、姉妹・友好都市をはじめとする世界の都市との交流を通じて交流人口の拡大を図り、本市の拠点性向上と地域経済の活性化につなげます。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標*	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ宿泊者数 ・観光入込客数 ・新潟市は暮らしやすいまちだと思ふ外国籍市民の割合 ・新潟市は国際的なまちだと思ふ市民の割合 		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

観光・国際交流部組織目標

観光・国際交流部では、本市が「訪れたいまち」として国内外の来訪者から選ばれるよう、新潟市総合計画2030に基づく取り組みにより、新潟市への観光マインドを活性化させます。併せて、来訪者への受け入れ態勢を強化するとともに、社会の変化を捉えつつ、新潟の魅力と拠点性を活かした誘客活動を積極的に展開することで、交流人口の回復を図り、その拡大につなげます。

国際交流では姉妹・友好都市等と多様な分野で交流を積み重ね、国際情勢に左右されにくい信頼関係を構築するとともに、多文化共生社会の実現に向けた取組を進め、国際都市としての発展とシビックプライドの醸成を図ります。

以上のことから、次の3つを目標として重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 県内外の自治体や関係団体と連携し、国内外観光客の誘客と MICE 誘致を促進します。
- 2 観光情報や魅力の発信拠点として、新・新潟駅観光案内センターを令和5年度中に竣工し、関係団体等と連携しながら受け入れ態勢を強化します。
- 3 姉妹都市・友好都市との多様な交流を促進します。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	3	達成数	3
取組結果	<p>新型コロナウイルスが5類に移行し国内外で旅行需要が急速に高まるなか、新潟県、佐渡市など広域自治体と連携し、国内外からの観光客と MICE の誘致活動を展開するとともに、新潟空港国際線定期便の再開やクルーズ船の寄港に向け積極的なセールス活動を行った結果、延べ宿泊者数は約 2,412 千人とコロナ禍前の令和元年を上回り、観光入込客数は 1,606 万人と令和元年の 86%まで回復しました。</p> <p>本市の新たな玄関口としてデジタルサイネージを活用した新観光案内センターが新潟駅にオープンしたほか、着地型コンテンツとして本市の魅力を活かした旅行商品の造成を支援するなど、来訪者へのおもてなし態勢の強化を図りました。</p> <p>姉妹都市・友好都市との多様な交流では、ナント市との代表団を相互派遣し、ウルサン市文化団をハンガウィまつりに招へいし公演を行いました。また、教育</p>				

	<p>委員会と連携し、市内小中学校とウルサン市の小中学校とでオンライン交流を実施しました。</p>
今後の方向性	<p>令和6年夏に「佐渡島の金山」の世界遺産登録が期待されており、佐渡市と一体となったキャンペーン及びプロモーションや新潟県等と連携した国内外への誘客活動を展開するとともに、来訪する多くの観光客の再訪を促進するため、新たな着地型コンテンツの造成やおもてなし態勢の一層の充実を図ります。</p> <p>また、観光面での状況変化を把握するため動態調査を実施し、本市のさらなる交流人口の拡大とその持続に向けた戦略づくりに活かしていきます。</p> <p>友好都市・姉妹都市との多様な交流を実施するとともに、多文化共生推進本部を立ち上げ、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを推進します。</p>